



あいさつができて、思いやりのある茨小の子どもたち

茨曾根小学校・道徳教育の実践指導研究 ④

# 広げよう 心の交流 あいさつで 地域ぐるみで『あいさつ運動』を实践

学校生活はあいさつに始まって、あいさつに終わるといっても言い過ぎではないようです。「おはよう」「さようなら」の登下校時のあいさつから学級活動、部活動などの会合、入学式卒業式のときなど、それぞれの場にふさわしいあいさつの仕方が事前に指導され行われています。よく学校は社会の縮図であると言われています。確かにそういう面も持ちながら、しかしまた、教育中心に建物が造られ、人も組織されている特殊な場とも言えます。かりに学校が家庭や社会と同じとすれば、学校でできるあいさつはそのまま家庭、社会へとつながっていくはずで、家庭でのしつけは余り考えなくてもよいことになりません。果たしてそうなのでしょうか。今回は道徳教育でのあいさつの意義などを中心に上げてみました。

## あいさつの効用は広範囲

その意義の理解としつけ、それに実践の両面にわたって努力しているといえます。

### よき校風を受け継ぐ

私たちはよく取材で市内の学校へおじゃまします。あいさつの指導がよくできている学校と、そうでない学校では受ける印象がまるで違います。

指導のできている学校は子供たちの顔もいきいきとし、私たちの心もはずみます。逆にそうでないところは、全体が重苦しく感じられます。このシリーズの初回でもふれましたが、茨小の児童たちは大きな声で「今日は」と、あいさつをしてくれます。

## 育てる目 育つ芽

### 成果をステップに さらに運動を推進



青山平一さん  
茨曾根地区区長会々長

地域的に引っ込み思案のところがあるんで、こうした運動が、子供たちに積極性を植え付けさせるきっかけになればと思っています。

さいわい子供たちのあいさつぶりも目に見えて良くなっているんで、楽しみにしています。本年度もさらに啓蒙運動に力を入れ、あいさつが親子の対話を生み、さらには明るい地域づくりの役割を担うことを期待しています。



家庭のしつけの中でおせいちちゃん、おばあちゃんたちが果たす役割は大きい

同校の場合は、道徳教育研究に取り組む前から「あいさつを含めた、礼儀の大切さ」について、その指導に力を入れてきた経緯があります。

広報紙をひもといて見ると昭和四十五年「学校めぐり」、五十四年の「あの街・この街」で、「さわやかあいさつ」についての記事が紹介されています。

このことは、最近、よく見られる道路横断時のドライバーへのお礼のあいさつです。四十五年当時はドライバーから好評で、中には「教材費の一部に」と、寄付金まで届ける人もあったそうです。

こうしたよき校風が、今の在校生たちにも受け継がれ、形式的でなくごく自然な態度で、私たちが迎えてくれています。

また、同地区では青少年健全育成会が中心となり、地区ぐるみであいさつ運動を推進し、学校の道徳研究の実践を、側面から応援してきているなど恵まれた環境にもあるといえます。

### むしろ家庭 教育こそ大切

しかし学校の教育や地域社会の努力だけで、すべきあいさつがきちんとできるようになるもので

### 学校と家庭が 互いに補って

お世話になった人へすぐにあいさつする習慣なども、家庭でこそ付けられます。学校での指導は大勢を相手にしているわけで、なかなか徹底しにくいところがあります。そこへいくと、家庭は一对一の指導であり、実際の場での指導ですからしつける気になれば、学校よりはるかにいいわけです。

家庭で指導できないところ、できにくいところは学校でしっかりと教えてもらい、家庭でしつけるところはきちんとしつける心がけが必要です。そして、あいさつのできる子供たちを育てていきたいものです。